

令和6年度
第1回 南相馬市総合教育会議

令和6年8月23日（金）

南 相 馬 市

第1回 南相馬市総合教育会議 会議録

1 開催日 令和6年8月23日（金）

2 場 所 市役所 東庁舎2階 第一会議室

3 会議時間 開会 午後 3時00分
閉会 午後 4時30分

4 出席者

市 長	門馬 和夫
教育長	大和田 博行（オンライン）
教育長職務代理者	高野 恵以子
委 員	金子 まゆみ
委 員	和田 菜子
委 員	山邊 彰一

5 欠席者（なし）

6 説明のため出席した者の職氏名

（教育委員会事務局）

教育委員会事務局長	宝玉 光之	次長兼教育総務課長	大石 雄彦
教育総務課課長補佐兼総務係長	加藤 安枢子	参事兼学校教育課長	矢内 信男
教育企画担当課長	熊坂 真利	参事兼指導主事	村上 潤一
IB研究担当係長	坂下 拓也		

（復興企画部）

復興企画部長	横田 美明	企画課長	寺島 政博
企画課係長	内城 弘志	企画課副主査	佐藤 亮

7 傍聴者（4名）

8 本日の会議に付した報告事項

- （1）令和6年度全国学力・学習状況調査結果について
- （2）英語教育の拡充について
- （3）国際バカロレア教育（IB）の検討状況について
- （4）令和6年度行政経営システム（サマーレビュー（試行））の検討状況について

9 本日の会議に付した協議事項

- （1）学習塾との連携について
- （2）その他

10 本日の会議に付したその他事項

令和6年度第2回南相馬市総合教育会議の開催について

【配布資料】 別添のとおり

- (1) 会議次第・名簿
- (2) 令和6年度第1回南相馬市総合教育会議について 資料1
- (3) 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の概要 資料2-1
- (4) 令和6年度全国学力学習状況調査結果 資料2-2
- (5) 外国語教育推進事業について 資料3
- (6) 国際バカロレア研究会 研究結果報告（1次とりまとめ）概要 資料4-1
- (7) 国際バカロレア研究会報告書（1次とりまとめ） 資料4-2
- (8) サマーレビュー検討状況（政策の柱1 教育・学び） 資料5
- (9) 学習塾連携事業について 資料6

午後3時00分 開会

■企画課長

只今より、令和6年度第1回南相馬市総合教育会議を開催いたします。

本日進行を務めさせていただきます、企画課長の寺島でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、はじめに、市長よりご挨拶申し上げます。

■市長

本日は令和6年度第1回南相馬市総合教育会議にご出席いただき、また、日頃より教育行政にご指導賜りありがとうございます。

山邊彰一委員におかれましては、今年の3月から教育委員に就任されまして、総合教育会議へのご出席は初めてということになりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日の会議ではできるだけ自由にご発言をいただきたいと思いますし、私も自由に発言させていただきます。自由に意見を出し合いながら少しでも良い方向性が見つかれば良いなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、報告事項4件、協議事項1件となっております。協議事項については、

■企画課長

それでは、次に「3 出席者の紹介」に入ります。

令和6年度初めての会議ということで、出席者の皆様をご紹介します。

（出席者 紹介）

■企画課長

次に、「4 協議事項」に入ってまいります。

南相馬市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により、これより市長が議長となり進行することとなりますので、よろしくお願いいたします。

■市長

それでは、進行役を務めさせていただきますので、ご協力よろしくお願いいたします。

報告事項「(1) 令和6年度全国学力・学習状況調査結果について」、事務局より説明をお願いします。

(学校教育課長 説明)

■市長

委員の皆さんからご質問はございますか。

調査結果については、各学校でも公表するとの説明でしたが、只今の説明にあった調査結果と全く同じ内容を公表するのでしょうか、別の内容なのでしょうか。

■学校教育課長

各学校別の調査結果について公表するものです。

現在、教育委員会でもアドバイス等をしながら、各学校で結果を取りまとめている状況です。

■市長

9月3日時点では市として、全国や県と比較してどうだったかという結果が公表され、その後に各学校の具体的な結果が別に公表されるということですか。

■学校教育課長

その通りです。

しかしながら、各学校の公表については、具体的な数値は公表せず、文章での表現として、全国と比べて上回った・下回った・同程度といった表現で公表することになります。

■市長

全体的な傾向としては今回の調査結果で判断できると思いますが、学校ごとの違いや特徴といった点は教育委員会で何か捉えていますか。

■学校教育課長

具体的な学校名を挙げるのはこの場では控えさせていただきたいと思いますので、あくまで傾向として説明させていただきます。

まず、冒頭でも説明させていただきましたが、今回の全国学力・学習状況調査については、思考力や表現力、判断力といった部分を調査するためのテストという側面もありまして、かなり狭い部分をピンポイントで調査していることから、今回の調査結果イコール全ての学力の結果と捉えることには抵抗があると考えています。

今回の調査以外にも市の学力調査や、県の学力テストというものもあるので、それらの様々なテストを活用して学力を把握しようとしているところですが、総じてひとつの傾向としましては、学校間の格差が非常に広がっている状況があると捉えています。今回の調査結果において、全国を大きく上回っている学校もありますし、大きく下回っている学校もあります。その差がかなり幅広い状況です。

しかしながら、結果を分析する上で付け加えさせていただきたいのが、学校の規模も大きく影響していると考えておりまして、学校の規模が大きければ母数も大きく、規模が小さい学校であれば母数も小さくなるという違いがあるので、小規模校の場合だと極端に高い低いという結果になりやすいという点も考慮しなければならないと思っています。

また、もう一つの要因として考えられるのが、「子どもたちの学び合い」です。これは、先生が一方的に説明をするのではなく、子どもたちが話し合いながら課題を解決したり、グループ活動を通じて問題に取り組んだりといった、南相馬市の授業スタイルということで先生方をお願いしているものですが、これがしっかりと定着している学校は良い結果になりやすく、そうでない学校は結果があまり良くないという傾向があると捉えているところで、一斉授業の指導というのが合わない時代になっているのかなと思っています。

■委員

先ほどの学校教育課長の説明の中で、教職員の採用について若い先生方が増えているという話がありましたが、単純に増えるだけではなく2～3年して流出していくという状況もあります。若い先生方の場合、自分の生活設計や、県教委の方で行っている3管内を勤めなければいけないという先々のプラン、そういったものとの噛み合わせもあると思いますが、せっかく南相馬市の授業スタイルを学んだとしても、それを生かせる期間を作ってあげられたらいいなと。県教委の方でも地元採用の教員を配置してくださるなど、色々な施策を打ってくれてはいると思いますが、南相馬市としても、医療・福祉分野で行っているような、この地域で働くことに対する様々な施策、そういったものを教員に対しても行っていくことが、長い目で見たときに必要なのだろうと思っています。

具体的な全国学力調査の結果と関係しませんが、そういった問題も裏にはあるのだろうと考えています。

■委員

学校教育課長の説明の中でありました家庭の教育力という点で、重要性は理解しますが、先生方が我々保護者に望むことは具体的にどのようなことなのでしょう。

■学校教育課長

まず、早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣を整えるということ、全ての基本となることなので必ず取り組んでいただきたいことだと思います。先ほどの食育の資料が関連しますが、この生活習慣が疎かになっている保護者が増えていると捉えています。親のペースで子育てをしてしまうと、寝る時間も遅い、食べる時間も遅い、食べる内容も大人と同じになるなど、言い過ぎかもしれませんが、子どもが子どもを育ててしまっているような、そういう保護者が若い世代で増えてきているという現状が大きな課題の一つかと思います。

また、学力という視点で見れば2点あると思いますが、一つは読書です。読むことに対する抵抗が子どもたちの中にあると、仮にテストをやったとしても問題が頭に入っていないので答えられません。読書を習慣づけるということに関しては、家庭で取り組んでいただく必要があるのだろうと思います。

もう一つはスマホやSNSの使わせ方です。学校の方ではルールを決めて使わせてくださいとお願いしていて、今までは中学校を中心にその指導をしてきたところですが、スマホ利用の低年齢化が進んでおりまして、今は小学校からその指導をしないと手遅れの状況です。スマホやゲームとの関わり方という点について、ルールをしっかり決めて、使うことの良し悪しを教えながら保護者がしっかりと管理をするということをお願いしたいと思っています。先ほどのグラフにもありましたが、ゲームやSNS、YouTubeに時間を割いてしまっている家庭が多い状況が南相馬で生まれていると推測できるのですが、この点については保護者と一緒に考えていかなければならない問題だと捉えております。

■委員

学力調査の結果を受けて、現場の先生方は予想通りと見ているのかそうではないのか、肌感覚としてどう捉えていらっしゃるのでしょうか。例えば、調査実施の前に予測を試みるなど。そうすれば、予測より低ければ自分たちのやり方はその子たちに合っていないということも分かるのではないかと思います。

もう一点が家庭の教育力の部分で、秋田の由利本荘市では家庭学習が定着しているということですが、ではなぜ南相馬市では定着しないのかという意味で、具体的な違いを把握した上でそこをケアしていけば同じか近いところまで持っていけるのではないかと思います。例えば、下校後に保護者が家にいる時間が秋田では比較的長く、南相馬では共働きで遅くまで働いている家庭が多いとか、もし仮にそうであれば学童で何らかのケアをすれば勉強の時間は確保できると思いますし、宿題の出し方や塾での指導などの対処ができると思います。規則正しい生活が大事ということはよく分かりますが、例えば自分自身に置き換えてみると、習い事をできる環境が近くにないので、勉強だけじゃない体験も子どもにさせたいと考えるとどうしても規則正しい生活ができなかったというのがありますし、そういう保護者は他にもいらっしゃると思います。

■学校教育課長

一つ目の学力調査結果に対する現場の肌感覚というご質問ですが、非常に鋭いご指摘で、教育委員会としては現場の先生方はもっと意識していただきと思っています。しかしながら、先生方がどれだけこの数値を重く受け止めているのかという点については、かなり温度差があるのだろうと感じています。例えば、小学校6年生と中学校3年生が調査の対象なので、その学年の先生方は自分たちが教えているので深刻に受け止めるということはあると思いますが、学力が積み重ねでできているということを考えれば、全体でその意識を高めていく必要があります。また、教科間の温度差もあると思っています。

大きな課題だと捉えていますが、全ての学年、全ての教科で、この調査結果をしっかりと受け止めて、南相馬の授業スタイルの根本的な考え方でもある積み重ねを通じて学力の向上を図るという、時間をかけて階段を上がるように学力を身に付けさせることが必要だと感じていますし、教育現場の方で危機意識を持ち、かつ全体で共有するように指導しているところでございます。

もう一つの秋田との違いという点ですが、人口規模や自治体としての構成、ほどよい田舎感など、環境的には南相馬市と由利本荘市は非常に似通っていると感じています。ただ、学力や家庭の教育力に大きな差があるという点は課題と捉えています。由利本荘市に限らず秋田でよく言われているのが、きちんと教えなければならい・きちんと身につけなければならないというこだわり・地域性が強いという話は聞いています。また、3世代構成の家庭が多いという特徴もあります。秋田では、今の学力基盤を作るのに30年かけたと言われるのですが、家庭学習をしっかりとやるようにと教え込まれた最初の世代が今まさに祖父母の年代になっていて、そういった経験が孫世代の教育にプラスに働いているということはあるかと思っています。南相馬市でも、例えば震災前であればそういった3世代の同居家庭というのが非常に多かったのだろうと思いますが、震災を通じて家庭環境が大きく変わってしまったという背景もあると思いますし、以前のように地域との繋がりを持てなくなってしまったということも大きな影響を与えているのだろうと感じているところです。

■委員

全国を上回る正答率の学校があるという背景からも、勉強が得意な子をさらに伸ばしていくという取組が必要なのかなと感じます。

■学校教育課長

上位生徒を伸ばしていくということも必要ですが、中位・下位の子どもたちに対する指導も重要だと考えております。それぞれの子どもごとに課題は異なりますので、一人ひとりに対して手厚く指導していくということを意識しながら取り組んでいきたいと考えているところです。

■市長

先ほど委員から、若い先生が2～3年で流出してしまうので、定着するような政策

を市で実施する必要があるのではというご意見をいただきました。魅力のある市町村だから定着してくれるとか、そういった傾向的なものはあるのでしょうか。

■学校教育課長

南相馬市は施設も整っていますし、子どもたちも素直だということで、南相馬市でやりたいとおっしゃる先生方もいらっしゃいますが、やはり地元出身の先生が少ないので、どうしても最終的には地元に戻っていくというのが大きな傾向ではあると思います。

■市長

私の大きな目標の一つに、良いか悪いかは別として学力向上を挙げていましたが、結論から言うとあまりよくないなと。ここ数年、良くなっていないというかむしろ悪くなっているんじゃないかと懸念しています。

私自身そんな風に捉えていますから、その原因を探りたいなと思い、今日はかなりこのテーマに時間をかけたんですが、今ほどの説明を聞くとよく分からなくなってきたというのが本音です。学校間で差がありますとか、先生の問題ですよとか、あるいはゲームとかスマホの使い方という家庭での時間の使い方の問題ですよとか、色々問題が出てきました。

どれか一つだけで解決する問題ではなく、様々なことを一緒にやらないと成果は出ませんというのが結論です、ということもあるのかもしれない。ただ、これらに対する優先順位を是非教育委員会として考えていただきたいと思います。

今回の結果の中で、大きなポイントとしては、平均以下の子どもが多く、極めて優秀な子どもが少ないという傾向なのかなと。特に算数や数学は顕著です。習熟度別に先生を配置して対応するというのもあるのかもしれないですが、それが難しい中で、全員の底上げというよりは、平均点以下の子どもに対する対応、平均点以上でもっと伸びるであろう子どもに対する対応など、一律にどうこうではなく、個別的な対応が必要なのではと思うのですが、これは方向性として間違いでしょうか。

もう一つが、学校で全て対応するというのは難しいんじゃないかなと、家庭との連携が必要なんだろうと思っています。例えば、学校は平均点を取れるようにする役割。優秀な子どもを伸ばす、あるいは全体的な底上げは家庭の方をお願いする。いずれ塾との連携にも関係してくる話ですが、ただ、まずは今回の結果だけでは結論が分からないので、次回までに、市として取り組んでいく中で、これを一番重要と捉えてやりましょうという分析が必要だと思いますので、少し時間をかけてこの分析を教育委員会にお願いしたいと思います。

■市長

続いて、報告事項「(2) 英語教育の拡充について」事務局より説明をお願いします。

(教育企画担当課長 説明)

■市長

委員の皆さんからご質問はございますか。

■委員

英検受験に対する支援について、目標に対する達成度、例えば中学校卒業段階ではどのような状況なのでしょうか。

■教育企画担当課長

国の目標は50%以上にするということになっていますが、この数値は実際に英検3級以上を取得している方と、英検は取得していないけど同程度の能力を有している方を加味した目標値となっています。

その上で、南相馬市での令和5年度末の取得率の状況ですが、26.5%となっております。令和4年度から支援対象を中学生全員に広げておりまして、どんどん取得率も伸びてきている状況でもありますので、今後もさらに進めてまいりたいと考えております。

■市長

26.5%の分母は何人ですか。

■教育企画担当課長

中学3年生の人数が分母です。それに対する取得した割合となっています。

■委員

6年度の第1回目の支援実績について、南相馬市全体で11名という理解でよろしいでしょうか。

■IB 研究担当係長

英検受験のタイミングは年に3回ありまして、基本的に1回目というのはほとんど受験されない状況です。2回目が恐らく3年生が中心となり、3回目に1、2年生が受験するということになります。

今回記載している11名は1回目の受験実績ですので、ほとんどの方が2回目、3回目に受験されるのではという想定でおります。

■市長

続いて、報告事項「(3) 国際バカロレア教育 (IB) の検討状況について」事務局より説明をお願いします。

(IB 研究担当係長 説明)

■市長

委員の皆さんからご質問はございますか。

なければ、続いて、報告事項「(4) 令和6年度行政経営システム(サマーレビュー(試行))の検討状況について」事務局より説明をお願いします。

(企画係長・教育委員会事務局長 説明)

■市長

委員の皆さんからご質問はございますか。

念のため今回の報告事項の取扱いについて確認ですが、今は内部評価の段階で、これから外部評価を受けるわけですね。途中経過の報告と受け止めてよろしいですか。

■企画係長

あくまでも、途中経過に対する報告です。

■市長

この資料をもとに今後外部評価を受けることになるわけですが、それについてはまた異なる委員の方々が評価することになるので、この場でどうこうというものではありません。

いずれにしても、外部からの評価結果が確定した段階では、教育委員会の定例会等において共有させていただければと思います。

皆さんご覧のとおり、良い悪いは別にして、それぞれの事業の達成率が数字で出ています。中には未達成の事業があるのも事実です。今の南相馬市の状況として、参考までにご覧いただければと思います。

それでは、次に協議事項「(1) 学習塾との連携について」事務局より説明をお願いします。

(学校教育課長 説明)

■市長

委員の皆さんからご質問はございますか。

■委員

家庭で個人個人が自己採点のような形式で実施する事業だと思うんですが、ちゃんとそれが身についているかどうかを学校側が確認することはあるのでしょうか。

■学校教育課長

昨年度の取組内容としましては、テスト結果を記録用紙に記録させて、子どもたちに反省点を書かせておりました。そういったものを学校経由で市教委にも提出いただきながら、それぞれの子どもたちの取組状況について把握し、アドバイスを行うというようなことをやっておりました。

■委員

コロナの時期にまさに子どもがやっていました。動画を見て自己学習するように学校から言われましたが、実際は動画を流すだけのようになっていたので、私はあまり意味がないなと思っていました。子どももとってあえず見なきゃいけないので、見るというよりは流すといった感じでした。その時にやはり対面でないと意味がないなと、せめてレベル分けしてほしいなと思っていたので、この事業を続けるのであれば、以前の対面型に戻された方がよろしいのかなと思います。

■市長

具体的なお意見ということだと思います。

先ほどの話にも戻りますが、やはり二つの課題があるのだらうと思っています。

一つは、学力のレベルにバラつきがある中で、一律に学力を高めることができるのか、どうやるのかという点。

もう一つは、学校でどこまでできるのか、家庭でどこまでできるのかという点。そういう意味では、今回の動画での学習は学校ではなく家庭でやってみたということですよ。こうやって始めてみるというのは良いことだと思います。

その上での改善点として、やはりレベル差というか一人ひとり違うので、学校では難しいような学習も、こうした塾の活用であれば、対象者毎に違う指導ができる可能性があるのだらうと思っています、その辺を是非検討していただきたいなと。

それと、先ほど委員からもご意見ありましたが、対面で実施できないかという点も探っていただきたいなと思っています。

加えて、国語・数学・英語3教科一律にやるということのも考え方だと思いますが、それぞれ色んなコースがあっても良いんじゃないかと思うんです。塾って一律じゃないよと、塾によって特徴があっても同じ教科でもやり方が違うよと。

教育委員会でどこまでできるかという問題はあるんですが、そうした考え方の違いみたいなものも含めて、何か提示できるというか選べる仕組みができるとすごいなと思っているんですが、今後に向けてどうでしょう。

■学校教育課長

塾に関することは、学校では手つかずというか別物だと考えています。だからこそ、学校の中で塾と連携してというのは難しい状況があるのかなと思います。

例えば、先ほどの春季・冬季講座については、動画学習をやる前は塾の講師が学校に出向いて実施していました。ただ、授業時間を使ってしまうと、学校からの評判としては必ずしも良いものではなかったというのが事実です。

今ほど市長からも、塾のやり方や個性のお話もありましたが、そこに子どもたちの特性とか苦手になっている教科とか学力の状況とか、どうマッチングさせていくかということが難しいのだらうと思います。

市内にも個人経営の塾が増えてきている状況もありますので、それができると子どもたちの学力にも良い影響が与えられるのではないかと考えているところではあり

ます。

■市長

学校での対応には限界があるというご意見かと。それはそうだと思いますし、何でもかんでも学校でやってくださいというのは無理があるからこそ、家庭教育があるんだとも思います。

ただ一方で、塾は家庭教育の範疇なので自由にやってくださいと、教育委員会としてはノータッチですとなるのか、そこに少しでも踏み込んでいただけるのか。学校で直接やるかやらないかは別として、家庭教育に塾を活用する仕組みづくりに教育委員会が入っていただけるのかが大きいのではないかなと思っています。

そういう意味で、今のところは一律にということで今回の動画学習に取り組んだのでしょうから、もうちょっと踏み込んで、市内に塾が色々ある中で、その特徴を紹介するとか選択できるような、学校の授業でやるかどうかはともかく、そういった事業が一つできると素晴らしいと思いますが、学校教育としてはそこまで入るべきではないんでしょうか。ただ、そうなると思うと誰がやってくれるのか。そこが弱いのも事実だと思っています。

■教育長

塾がメインテーマとなっていますが、基本的には家庭学習をどういう風に充実させるのか、そのために市内の塾はどう機能していて、その機能をどのくらい活用できるのか、ということなのかなと思っています。お話を聞いておりました。

先ほどの全国学力学習状況調査における学習状況の中で、全国と比べて、勉強時間が少ないという現状があります。家庭だけでそれを補うだけの勉強時間を確保できる家庭ばかりではないと思いますので、そこをカバーするために塾の力を借りるのが理想的なのだろうと思いますし、それを通して、子どもたちの主体的に色々なことにチャレンジする意欲も高まってくればいいなと思っています。

では具体的に誰がどのようにという点については、整理するためのお時間をいただきたいと思います。

■市長

塾をテーマにここまで踏み込んで具体的な話をしたのは初めてだと思うので、対面型に戻すことや、習熟度ごとの授業のやり方みたいな点も含めて、教育委員会の方でバージョンアップの可否については是非検討いただきたいと思います。

これまで学校教育の範疇で学校の先生がやっていたことに対して、塾の力も活用してみようという点は大きな一歩だと思いますし、やってみる価値はあると思っています。

それでは、協議事項「(1) 学習塾との連携について」は以上としたいと思います。

「(2) その他」として、事務局から何かありますか。

■企画課長

それでは、事務局の方から第2回南相馬市総合教育会議の開催日程についてお知らせさせていただきたいと思います。

第2回会議は令和6年11月18日に教育委員会定例会が予定されておりますので、本日同様それが終了次第、第2回目の総合教育会議を開催させていただければと考えております。内容については、令和7年度当初予算の計上に向けた具体的な事業等に関する協議を想定しておりますので、ご参加の程よろしく願いいたします。

また、会議開催の約1週間前には、会議資料をお送りいたしますので、よろしくお願いいたします。

■市長

その他、皆さまから何かございませんか。

無いようであれば、進行を事務局へ返します。

■企画課長

それでは、以上を持ちまして、令和6年度第1回南相馬市総合教育会議を終了いたします。

本日は長時間にわたりご協議いただきまして、ありがとうございました。

午後 4時30分